小学校

社会科の事例

【考え・基礎知識】
市のゴミ処理事業や，地域の人々の協力，業者の取組等のごみの処理について調べ，模造紙にまとめて表現することができる。

【つながり】
自分達の分別等の取組は，市のごみ処理事業・ごみ対策への協力であり，市と市民，業者が協力して，健康な生活や良好な生活環境が守られていることを考える。

【応用・ひろがり】
ごみ処理の仕組や分別の大切さについて，根拠を持って ALT に伝え，自分達のできることについて考え，協力しようとする姿勢を持つ。

◇ **学年**　第４学年
◇ **単元名**　わたしたちのくらしとごみ
◇ **単元の目標**　ごみや資源物の処理の仕方，働く人々について意欲的に調べ，地域の人々と関係機関が協力して人々の健康な生活や良好な生活環境を守っていることを理解するとともに，地域社会の一員として主体的にごみの処理に関する問題についての考えを持ち，関わろうとすることができる。
◇ **単元の計画**（全 22 時間）

学習活動	時数	指導上の留意事項
課題の設定（２）		
○ごみの処理について関心を持つ。 ・（総合的な学習の時間）ＡＬＴとの交流会で「日本に来て１番困ったこと」が「ごみの出し方」であることを知り，日本のごみの状況，ごみ処理の仕方について関心を持つ。	事前	★ALT から「なぜ，日本はごみの出し方のルールがこんなに厳しいのか？」，「なぜ，分別をしなければならないのか？」という質問を受け，うまく答えられない経験をさせることで，「日本のごみの状況や，分別の大切さなどについて詳しく理解して，ALT に伝えたい」という気持ちを高める。日常から学習環境の美化の意識を高めておくとともに，交流会で ALT とコミュニケーションをしっかりとらせ，児童に ALT やその出身国等について興味を十分持たせることが必要である。そして，日本のごみ処理の仕方，分別の大切さについて，ALT に伝える会を再度設定することで，児童に学習する目的意識を持たせる。
・他国とごみの排出量等を比べ，日本がごみを大量に出していること（排出量が世界１位），日本各地でごみ処理の問題を抱えていることを知り，「それだけのごみがどのように処理されているのか」，「自分たちの地域のごみ処理はどうなっているのか」という疑問を持ち，課題を設定する。	2	
課題　ごみはどのように処理されているのだろう。 ～なぜ，ごみを分別しないといけないのか説明しよう～		
情報の収集・整理・分析（18）		
○調べる内容や方法を話し合い，追究の計画を立てる。	1	○どのような順序で，どこを見学し，どのように調べればいいのか，具体的に考え，調べる途中で必要に応じて計画を変更しながら追究することを確認する。
○聞き取りや見学を通して，情報を集める。 ・市のごみの状況はどうなっているか。 ・誰がどのようにごみを収集しているか。 ・清掃工場や埋め立て処分場はどのような仕組になっているか。 ・回収された資源は，どのように再利用されているか。	9	
○調べて分かったことを上記の観点毎に班で模造紙にまとめて発表し，他の班からまとめ方の良い点，改善すべき点を聞く。	2	○ごみ処理の流れを，児童の思考の流れで整理しながら，「市の取組」，「市民の協力」，「企業の取組」という３つの立場があることに気付かせる。
○他の班の意見を参考に，模造紙にまとめたことを改善する。	1	
○分かったことを基に，次の点で話し合う。 ・「ごみはどのように処理されているのだろう」 市が高い技術を持ったごみ処理場を建設し，分別，出し方等の決まりをつくっていたね。 地域の皆が分別してごみ出しをしていたよ。見守り当番を決めている地域もあったね。 資源ごみの回収等は業者も協力していたね。 **市のごみ処理事業に市民や業者が協力して，町がきれいに保たれているんだね。**	2	○まとめた模造紙を掲示し，自分たちのまとめた資料を基に意見を比較・関連付け・総合等してまとめさせる。
・「なぜ，分別をしないといけないのだろう」 ごみ処理場の処理能力等に合わせて決められた分別をしないとごみ処理場の仕事が増えるね。 分別しないと燃やした後に出る灰も増えると聞いたよ。 再利用できる資源ごみを回収し，ごみを減らす目的もあったね。 **自分達のきれいな地域を守るには，決められた分別を守る責任があるね。**		新たな課題へつなげる発問 「分別の必要性以外に，伝えなければならないことはないかな？」と問うことで，調べる中で気付いたごみ処理のかかえる問題を想起させる。
○ALT に効果的に伝えるための内容，方法と，自分達のできることを考え，皆に伝え，行動する大切さに気付く。 （ごみ処理費用の増大，埋め立て地の不足，ごみの多様化による処理の難化等）	2	○各班がまとめた模造紙から，どの資料をどのように説明すればいいか，考えさせる。
○個人及びクラスで取り組むことを整理し，計画を立てる。	1	
実行，振り返り（２）		
○ＡＬＴを招いて，説明発表会を開催する。	1	○ALT からの質問も受け付け，観点の担当班で回答させることで，より児童の理解を深める。
○他に地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守る取組はないかを考え，新たな課題を見出す。	1	

中学校

社会科の事例

【考え・基礎知識】
議会制民主主義，政党政治，普通選挙など我が国の民主政治の基盤となる考え方や仕組みについて説明することができる。

【つながり】
主権者として主体的に政治に参加することの意義について，既習事項や既習の見方や考え方を活用して推論することができる。

【応用・ひろがり】
選挙の意義について自分の考えをレポートにまとめ，発信することができる。

◇ **学年**　　第３学年
◇ **小単元名**　民主政治と政治参加～選挙の意義について伝えよう～
◇ **小単元の目標**　　政治に対する関心を高め，主権者であるという自覚を深め，主体的に社会に参画することの重要性を理解するとともに，模擬投票等を通して選挙の意義について考えることができる。
◇ **小単元の計画（全 10 時間）**

学習活動	時数	指導上の留意点
課題の発見・設定（２）		★授業や学活等で，収集した資料を紹介し，意欲を継続させるようにする。
○政治や選挙に関連する資料を収集する。 ○収集した資料の中から疑問に思ったことや興味・関心を持ったことを意見交換する。更に知りたいことや新たな疑問について調べる方法を考える。	1	★初めて国政選挙に参加することとなった 18 歳の投票率が全体の投票率よりも低いことに疑問を持たせ，「なぜ，投票率が低いのだろう?」「投票率が低いと，どのような問題が出てくるのだろう？」等と問いかけ，単元の学習課題を見出しさせるようにする。
○選挙管理委員会の職員の方を招き，選挙の歴史や仕組み，現在の選挙の課題等について話を聞く。中学生として選挙の意義について考えたことを発信してほしいと言われる。	1	
○単元の学習課題を見いだす。 課題　なぜ，政治に参加することが大切なのか説明しよう。		
○めあてに対する予想を記述する。		
情報の収集・整理（４）		
○日本の政治が民主主義や議会制民主主義を取り入れている理由について調べる。 ・独裁政治や専制政治との比較を通して，民主主義や議会制民主主義の利点や意義を整理する。	1	○多数決とともに少数意見を尊重することも民主主義にとって不可欠なことに気付かせるようにする。
○民主政治にとって政党が果たす役割や政党政治の仕組みについて調べる。 ・現在の主な政党を取り上げて，政党政治の役割や仕組みについて整理する。	1	○収集した資料の政党に関する記事を活用して，現実の政党政治に対する理解を深めるようにする。
○選挙がどのように行われているのか，どのような課題があるのかについて調べる。 ・選挙管理委員会の職員の方の話や歴史的分野の既習内容を活用して整理する。	1	○普通選挙権は不断の努力により獲得した権利であり，比例代表制など国民の意見をより政治に反映する工夫がなされていることに気付かせるようにする。
○選挙以外の政治参加の方法について調べる。 ・世論やマスメディアの果たす役割を整理する。	1	
情報の整理・分析（２）		
○なぜ，政治に参加することが大切なのか，模擬投票を通して考察する。 ・架空の政党４つの中から１つの政党に投票する。 ・各政党の政策は，福祉の充実や環境問題等を取り上げる。 ・政党を選んだ理由やその政策が最も重要と判断した根拠をワークシートに記述する。	2	★生徒の実態を踏まえて，他の政策を取り上げることも考えられる。
【全体での交流】 ・クラス全体の投票結果を確認し，それぞれが政党を選んだ理由について交流する。 ・保護者の方にも事前に同じ模擬投票をしていただき，その結果について交流する。 ・より多くの人々が投票することにより，多様な意見を政治に反映することができ，民主政治がより充実していくことを認識し，主権者として政治に参加しようとする意欲を持つ。		★交流の際には，既習の「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方を活用して，政策の実現性や効率性を踏まえて意見交流させるようにし，現代社会を捉える見方や考え方を養うようにする。 ★自分達の投票結果と保護者の方の投票結果を比較させ，相違点は何か，その相違点が生じた理由を意見交流させ，年代が違うと重視する政策に変化が生じることを理解させるようにする。 考察の際には，職場体験活動等で触れた地域の方等の考えを想起するように促す。
まとめ・創造・表現（１）		
○政治に参加する意義についてレポートを作成する。 ○選挙管理委員会の職員を招き，発表内容を評価していただき考えを更に深める。レポートは文化祭等で発表する。	1	★新たに見出した課題については，今後学習する単元において，関連付けて考察していくようにする。
実行・振り返り（１）		
○単元の初めの予想と比べ，自分の考えの変容を整理する。	1	

高等学校

地理歴史科（地理Ｂ）の事例

【考え・基礎知識】
地域貿易協定の１つであるＴＰＰの概要を説明することができる。

【つながり】
ＴＰＰ参加の是非について複数の立場や意見を踏まえて，具体的な根拠を基に考察することができる。

【応用・ひろがり】
ＴＰＰ参加の是非を新たな視点で考えることを通して，自らの主張と異なる意見に対し，合意するために必要な条件を考察することができる。

◇ **学年**　第３学年
◇ **単元名**　現代世界の貿易と経済圏
◇ **単元の目標**　国際分業の発達と貿易の地域間格差や日本の貿易の現状と課題について理解を深め，ＴＰＰ参加の是非について複数の立場や意見を踏まえて，解決に向けて考察することができる。

時	主な学習活動
1	貿易の自由化と経済連携について説明する。
2	**日本のＴＰＰ参加の是非について，資料等の根拠を基に自分の考えを表現する。→本時**
3	自分の調べてみたい国の視点で，ＴＰＰ参加の是非について提案する。

知識を活用した本時の後に，新たな視点で同一の事象を考えさせ，自らの見方や考え方に気付かせる。

◇ **本時の目標**　ＴＰＰの参加の是非について，具体的な根拠を基に考察することができる。
◇ **学習の流れ（2時間目/全3時間）**

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1　課題意識を持つ。 なぜ日本でＴＰＰ参加について，賛否両論あるのだろうか。 **課題　日本はＴＰＰに参加すべきだろうか。**	◇新聞等の資料から賛否両論ある理由を考えさせ，前時の学習内容を基に，賛成，反対の立場に分けて，その背景にある考え方の違いに気付かせる。	**【課題発見】** **現代社会に見られるＴＰＰなどの，すぐには答えを導き出せない複雑な課題については，習得した知識を活用して考える場面を設定する。**
2　本時のめあてを確認する。 **めあて**　日本のＴＰＰ参加の是非について，具体的な根拠を基に自分の考えを表現しよう。		
3　グループ別討議 ・資料①～③のグループを決め，それぞれのグループに分かれてＴＰＰに参加すべきか否かを検討する。 資料①　各国の貿易上位５品目とその割合，輸出・輸入総額等を示した資料から，自由貿易を行う理由を導き出す（自由貿易の視点）。 （例）Ｑ　なぜ，輸出入品の割合は国ごとで異なるのか。 Ａ１　それぞれの国で人口が異なり需要量が異なるから異なるのではないか。 反論　製品の必要性はどの国でも同じ程度ではないか。 Ａ２　得意とする製品を生産して輸出しあった方が世界全体が豊かになるからではないか。 資料②　日本の主要な輸入品の貿易相手国を示した資料から，貿易の自国産業に対する影響についての特徴を導き出す（保護貿易の視点）。 資料③　日本の輸出品目の推移を示した資料から，農業から工業，さらに軽工業から重工業へと発展する産業の発展の特徴を導き出す（産業の視点）。 ・グループで意見をまとめて発表する。	◇資料を正確に読み取らせるため，自由貿易を行う理由等，何を考えたらよいか，プロセスを明確に示す。 ◇「なぜ輸出入品割合は国ごとで異なるのか」など争点となる問いを発し，グループで討議させる。 ◇討議をさせる際には，資料をもとに，「なぜその考えになったのか」など根拠について意識させる。また，相手の考えに対して，「本当にその結論でよいか」など，批判的に検討できる関係を築かせ，反論となるような問いかけが相互にできるようにする。 ◆既習内容を振り返らせ，国際分業の考え方を使って説明できるように助言する。 ◇貿易に関わらず，保護貿易の視点，工業の視点や農業の視点等，課題を多角的に考えさせる。	・資料を読み取り，情報を適切に選択して活用している。 〔資料活用の技能〕 （ワークシート）
4　全体討議 **日本はＴＰＰに参加すべきか否かを検討させる。** ・それぞれの資料から読み取られた特徴をどのように組み合わせれば，合理的に考察できるかを個人で検討する。 ・クラス全体で討議する。	◇資料で読み取ったことや討議した内容を基に自分の意見を構想する。	**【深い学び】** **それぞれのグループ討議で，どのような視点で考えていたのかを共有させ，異なる視点で考えた意見との合意に向け，どのように調整していくかについて考察させる。** ・視点の異なる３つの資料を総合して考察している。 〔思考・判断・表現〕 （ワークシート）
生徒のまとめ例 資料①から世界全体の生産量が増加するには，自国で生産することが有利な商品を生産し貿易した方が良い。また，資料③から日本は工業製品の生産が進み成長したことから，工業製品を輸出できる政策をとるために，ＴＰＰに参加して自由貿易を行うのがよいと考える。ただし，資料②から，安い農産物の流入には，国内の農業や食の安全への影響も大きいことが分かったので，この課題を克服する方法を考える必要がある。		
5　本時を振り返り，次時につなげる。 ・次時では他国の立場に立ってＴＰＰへ参加すべきか考えることを予告する。		

高等学校

公民科（政治・経済）の事例

【考え・基礎知識】
完全競争市場において，価格を誘因として経済的資源が効率的に配分される仕組みを説明できる。

【つながり】
「情報の非対称性」という概念を用いて，完全競争の条件が満たされない場合は，市場を通じた資源配分が非効率的となることを考察できる。

【応用・ひろがり】
「情報の非対称性」という概念を用いて，「市場の失敗」の克服に向けた具体策を構想できる。

◇ **学年**　第３学年
◇ **単元名**　市場経済の機能と限界
◇ **単元の目標**　「情報の非対称性」という概念を用いて，完全競争の条件が満たされない場合は，市場を通じた資源配分が非効率的となることを考察できる。

時	主な学習活動
1	完全競争市場における市場メカニズムを理解する。
2	**「情報の非対称性」という概念を活用して，完全競争の条件が満たされない場合，市場を通じた資源配分は非効率となることを多面的・多角的に考察する。→本時**
3	市場の失敗の要因である「企業の寡占化・独占化」や「外部性」について理解するとともに，「情報の非対称性」を活用して「市場の失敗」の克服に向けた具体策を構想する。

「情報の非対称性」という概念を，実際の経済的事象に当てはめる場面を意図的に設定することで，社会の中で汎用的に使える「概念」に高める。

◇ **本時の目標**　「情報の非対称性」という概念を活用して，完全競争の条件が満たされない場合，市場を通じた資源配分は非効率となることを多面的・多角的に考察することができる。

◇ **学習の流れ（2時間目/全3時間）**

学習活動	指導上の留意事項（◇） **（◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）**	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1　課題意識を持つ。 ・食品の産地偽装を報じた記事を提示し，「なぜ，生産者はリスクを冒して産地を偽装したのか？」と問いかける。 **課題　市場における「情報の非対称」は，市場にどんな影響を与えるのだろうか？**	◇生徒は「産地表示で高級感が増すから」「発覚しないと思ったから」などの回答をすると思われる。そこで「なぜ，発覚しないと思ったのか？」と更に問うことで，市場においては，売り手と買い手の持つ情報は非対称となることに気付かせる。	**【課題発見】** 教師が生徒の回答に対して更に問いを重ねていくことで，生徒は自らの課題意識を深め，「問い」を立てることができるようになる。
2　本時のめあてを確認する。 **めあて**　「情報の非対称性」が市場にどんな影響を与えるか，具体的に考えてみよう。		
3　中古車市場を例に「情報の非対称性」という概念を獲得する。 （例）・買い手は，正常車と欠陥車の割合が半々であることは知っているが正常車と欠陥車を区別できない。 ・売り手は，自分の保有する車の状態を分かっており，正常車には200万円，欠陥車には100万円の値打ちがある。 ・上の中古車市場の例の需給関係を，３つの立場から予測する。 ①　「買い手」の立場 ②　欠陥車を保有する「売り手」の立場 ③　正常車を保有する「売り手」の立場 ・①～③の予測から，この中古車市場は，今後どのように変化するかを考える。	◆買い手の中立的なリスク態度は「期待値」で表すことを確認する。 【予想される答え】 ①　売られる車の半分は欠陥車なので150万円（期待値）で買う。 ②　100万円以上で売れる可能性が高いため保有する車を売却する。 ③　200万円の値打ちがあるのに150万円でしか売れないため保有する車の売却を躊躇する。 ◇この中古車市場には欠陥車しか出回らず，結果として，正常車を求める買い手は市場から撤退するようになることに気付かせる。	**【深い学び】** 中古車市場の考察を通じて獲得した，売り手と買い手の間にある製品の品質に関する情報格差が市場を通じた資源配分を非効率的にするという概念を，他の経済的事象に当てはめて検証することで，説明力の高い汎用的に使える概念に高める。
4　医療保険市場において，「情報の非対称性」は，どのような影響を与えるのかを考察する。 ・医療保険市場における「売り手」と「買い手」を確認し，どちらが多くの情報を有しているかを考える。 ・情報の非対称性が，医療保険市場にどんな影響を与えるかを考える。	◇医療保険市場における「売り手」は保険会社，「買い手」は保険加入者であり，「買い手」の方が多く情報を有することを確認する。 ◇医療保険市場においては，「買い手」が保険の適用を受けやすい人なのか，保険金の支払いが少なくて済む人なのかを，「売り手」が判別するのが極めて難しいことに気付かせる。 ◇「売り手」が損をしないように保険料を高く設定すれば，健康状態の良い「買い手」にとっては保険料が割高になるので解約が増え，結果として，医療保険市場が縮小していくことに気付かせる。	・「情報の非対称性」という概念を用いて，市場における資源配分が非効率になることを，多面的・多角的に考察している。 〔思考・判断・表現〕 (ワークシート)
5　本時のまとめを行う。 **生徒のまとめ例** 「情報の非対称性」により，質の悪い商品が出回ったり適正価格より高い価格で取引されたりすることで，優良な買い手が市場から離れるだけでなく，効率的な資源配分が阻害されることになる。		
6　本時を振り返り，次時につなげる。 ・「情報の非対称性」を克服するためには，どんな具体策が考えられるだろうかと問いかける。	◇身の回りの事象に目を向け，同様の事象があるのか考えさせる。	